

ベストクラス候補選定理由書

作成者：坪内稔明，庭瀬涼右，松本 剛，石原 諭，進藤佑香

科目名称	学校カリキュラムのデザインと推進体制（昼間クラス） (担当教員名： 伊藤博之・山内敏男・西本弘子)		
課 程	： 大学院（専門職）	開講時期	： 後期
授業形態	： 講義・演習	授業規模	： （9人）
インタビュー対象教員名	伊藤 博之・山内 敏男 (実施日時：2019年7月30日(火)10時45分～11時35分・31日(水)16時30分～17時15分 実施場所：総合研究棟中会議室・図書館会議室)		
インタビュー対象受講者名	谷本 明郁・蔦屋 吉晃・岸田 有紀子・水本 美穂 (実施日時：2019年8月23日(金)12時40分～13時30分； 実施場所：総合研究棟小会議室)		
選定理由	<p>私たちは、担当教員・受講生から3度に渡ってお話しを伺い、当該授業の内容、特徴について知ることができた。これらにより、学生参加の授業のあり方について考える機会を得た。以下に授業の内容と受講者の意見をまとめる。</p> <p>【担当教員側からの意見】「自分たちで答えを探索させる授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二回にわたる授業検討会を通して現職とストレート生のコラボを行う。検討会では、教員はタッチせず、現職・学部を卒業したばかりのストレート生同士でのやり取りを大切にする。 ・3つの視点<実践→話し合い→振り返り>を基に、自分たちで解釈をして勉強してもらう。 ・すべての授業において、チーム・ティーチング形式で授業を行った。 ・受講生の間関係の作り方・立ち振る舞い・理論を見つけ出す・場づくりなどの工夫点など、学ぶ姿勢を評価していた。 ・ルールに乗らず、自分の良いと思う軸をもって授業を行うよう心がけた。 <p>【受講生側からの意見】「受講生同士が勉強になる授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループワーク、模擬授業等の様々な授業形態であるため、新鮮であった。 ・校内研修により、ほかの授業や研究にも生かせるようになった。 ・講義と演習のバランスでは、講義で対話しながら学んだという意見がでた。また、演習では、ストレート生を新任教諭に見立てて行うことが現職も勉強になることが多かった。 ・実際の事例を出しながら研修を行うことにより、それぞれの強みを生かすこともでき、現職の先生に新任のころの気づきをもたらすことができた。 ・シャトルシートというふりかえりの用紙を活用してお互いにコメントすることにより、意見を共有することが大切だと感じた。 ・ホワイトボード・ミーティング（それぞれの意見を付箋に記入しホワイトボードに貼り付ける）により、意見の共通点を大まかに捉えられるとともに、新たな視点を取り入れられた。 <p>【総括】</p> <p>本授業は、自由記述コメントでは、「多様な形式による授業が組み合わせられている」や、「明確な目標や意義が感じられる」など教員と受講生が授業を通して、うまくマッチングするよう工夫して構成されている。これらのユニークな内容や学生の授業に対する有意義であるという意見より、ベストクラス候補としてふさわしい授業であると考えられ推薦することとした。</p>		